

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 4 7	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Zonisamide decreases ethanol intake in rats and mice. ゾニサミドはラットとマウスでのエタノール摂取を減少させる	
執筆者	
Knapp CM, Mercado M, Markley TL, Crosby S, Ciraulo DA, Kornetsky C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pharmacol Biochem Behav. 87(1): 65-72 (2007)	
キーワード	
エタノール、ゾニサミド、アルコール依存症、抗けいれん薬	
要 旨	
<p>トピラメートやバルプロ酸などの幾つかの抗けいれん薬は齧歯類の飲酒モデルでアルコール消費を減少させることが見いだされている。本研究では、新規抗けいれん薬であるゾニサミドがマウスあるいはラットで同様の作用を持つかどうか検討した。</p> <p>最初の実験で、乳糖 (対照)、トピラメート、あるいはゾニサミドを処置した Wistar 系ラットで 1 時間限定時間での 10%エタノールと 5%ショ糖液の消費量を測定した。次の実験では、ゾニサミドあるいは対照 (溶媒) を処置した C57BL/B6N マウスの 2 時間限定時間での 10%エタノールと水の摂取を測定した。</p> <p>ラットで 50 mg/kg (経口投与) のトピラメートあるいはゾニサミドは、エタノールとショ糖の摂取量を中程度ではあるが有意に減少させた。マウスでの 50 mg/kg (腹腔内投与) のゾニサミドはエタノール消費量を著しく低下させた。</p> <p>ゾニサミドがマウスとラットの飲酒限定到達モデルでエタノール消費を減少させた結果は、ゾニサミドがトピラメートのようにアルコール依存症の治療に有効である可能性を提示している。</p>	